



松江小だより

令和6年5月31日
6月号
江戸川区立松江小学校

～ 「 不滅の法灯 」 ～

副校長 小松 露子

木々の葉の雨のしずくが美しい季節となりました。

6月は1学期の折り返し地点となります。新しい1年がスタートして振り返りをする良い機会ではないでしょうか。

新学期が始まった時に子供たちは1学期の目標を書きました。

ある学級の目標です。

「なわとびで難しい技に挑戦したい」

「手を挙げ、意見を言いたい」

「声を掛け、友達をたくさんつくりたい」

目標をもつということは自分の可能性を信じ、伸ばしていこうとする表れでもあります。学校はそんな子供たちの支えになりたいと考えます。

では私たち教職員はどのようなことができるでしょうか。

体力づくりに関する目標にはできるようになったことが目に見えて分かるようにすることが必要です。カードなどを用意し、できるようになった技や回数を目で見えてわかるようにし、できた喜びを味わわせます。

学習に対する目標には課題解決の在り方が挙げられます。授業では課題を解決する方法や内容を身に付けます。また、家庭学習では自主学習をすすめており、学習内容の予習をしたり、さらに調べたりしています。そのよい例を取り上げ子供たちに示すことでさらに深まります。反復練習だけではなく自ら学習する力を育てます。

相手を意識した目標には友達に話したり聞いたりする姿勢を通して、相手の良さや考えを知る活動を授業や行事などを通して行っていきます。自分も人も大切にできる子供たちを育てます。

延暦寺にある「不滅の法灯」は1200年間一度も消えることなく輝き続けていると言われていています。(織田信長の比叡山焼き討ちの際に比叡山の法灯が消え山形県の立石寺に分灯されていたものを再分灯したとも言われています。) 菜種油を燃料にして灯芯が浸ることで火が点いており、菜種油を絶やさないように僧侶が朝晩注ぎ足しています。その油を注ぎ足す役目は決められた人ではなく、気付いた人が油を足しているのだそうです。

このように担任だけではなく学校全体で子供たちの目標という灯が輝き続けられるよう支援したいと考えています。